

◆ デコ・プロヴァンス ◆ (準備)

《材料》

種類	商品名	標準施工面積
下塗り材 (シーラー)	①セニクリル	2.5L=±20㎡ 10L=±80㎡
ベース材	②デコ・プロヴァンス ペースト Vパウダー	±18㎡ ±15㎡
仕上材	③デコ・プロヴァンス ワックス	±25㎡
着色剤	③プロヴァンスカラー	ワックス1缶に対して1個

※施工面積は、下地の状況や施工方法、またテクスチャーによって変動します。



①



②



③

◆ デコ・プロヴァンス ◆ (施工)

① 下塗り

セニクリル(シーラー)は、下地と壁材の接着をよくするため、必ず使用してください。
セニクリルをローラーなどで塗った後、6～12時間乾かしてください。
2度塗りの際には、4時間以上乾かしてから2度目を塗ってください。



② ベース(デコ・プロヴァンス ペースト/Vパウダー)

デコ・プロヴァンスのベース材にはペースト状のものとパウダー状のものがあります。仕上がりの質感がそれぞれ異なるため、詳細はお問合せください。
デコ・プロヴァンスは様々なパターンを作ることが出来ます。
シーラーが完全に乾いたら、コテや刷毛で1～1.5mm程度の厚さで施工してください。

※ ペーストタイプの場合、材料が固い時は塗りやすい状態まで水を混ぜることも出来ます(最大1L程度)。水を加えた材料は腐敗しやすいので、2～3日以内に使用してください。

※ パウダーは粉末状ですので、水を混ぜて練ってからお使いください。
Vパウダーは6.5Lの水を入れた別容器にパウダーを入れ、攪拌棒や低速の電動ミキサーでダマにならないよう少しずつ混ぜ、その後30分程度ねかせてから使用します。
水と混ぜたパウダーは2～3日以内に使用してください。



塗る人のクセがパターンに現れるため、ひとつの壁面は一人の手で施工することをお勧めします。
専用の鏝を取り扱っておりますので、詳細はお問合せください。

③ 仕上げ（蜜蝋ワックスと色づけ）

ワックスにプロヴァンスカラーをまぜて着色します。
ワックス1缶に対してプロヴァンスカラー（全19色）1個を混ぜ
ムラがないようによく混ぜます。

※ ヴァントー（白）はワックスを着色せず、そのままご使用ください。スパチュレット

完全に乾いたベース材の上に着色したワックスを塗ります。
鏝を色々な方向に動かしながら薄く塗っていきます。細かい部分は刷毛で塗り、
鏝で刷毛目を消してください。
その他、専用のグローブで大まかにワックスを塗り、乾かないうちに
スパチュレットでワックスを伸ばすという塗り方もできます。

※ 塗り継ぎ部分は、先に塗った部分に再度ワックスが重なってしまうと
色が濃くなり目立つので素早く伸ばしてください。

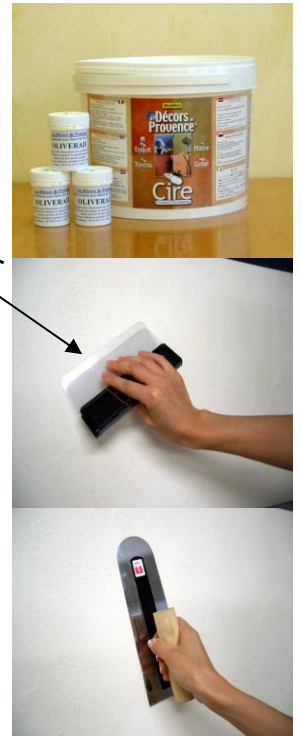
約12時間以上十分に乾かしてください。

ワックスは乾くと若干色が濃くなります。

より濃い色にしたい場合は、ワックスが乾いてから重ね塗りしてください。

異なる色を重ね塗りすることによって、オリジナルカラーに仕上げることも可能です。

- ※ 自然の植物や鉱物を原料にしているため、ロットにより色合いが若干異なる場合があります。
- ※ 弾性を待たない性質のため、下地の動きなどによってはクラックが発生する場合があります。
- ※ 濃い色のワックスを塗る際は色ムラが出やすいので、ヴァントー（未着色のワックス）を一度塗ってから、濃い色のワックスを塗ることをおすすめします。



ワックスについて

着色したワックスを壁に塗り、鏝やスパチュレットで表面を軽くしごくようにして手早くワックスを
伸ばします。これにより、ベースのテクスチャーの凹凸模様が鮮明に現れます。凹部分は
ワックスが溜まるので色が濃くなり、凸部分は色が薄く現れ、自然な色の濃淡が出来上がります。
テクスチャーのアレンジや着色の方法を変えることによっても様々な表情を作り出すことができます。
仕上げに蜜蝋ワックスを塗ることにより、壁への色付けと、汚れからの保護を可能にします。

調色について

ワックス1缶対プロヴァンスカラー1個の比率による混合が標準です。
基本色より濃い色、または薄い色をご希望の場合は混ぜるワックスの分量を調整してください。
例えば、基本色の半分の色を作りたいときは、ワックス2缶を別の容器に入れ、その中にプロ
ヴァンスカラーを1個混ぜると、ちょうど半分の色を作ることができます。

◆ 施工に関して

- ・ 施工前に試し塗りをしてパターンを確認してください。
- ・ 施工時から完全に乾燥するまでに、気温が5℃以下になる場合には、クラックの原因になります。
- ・ 施工方法の文中の説明は、気温20℃の場合の乾燥時間の目安です。
- ・ 天候や気温・湿度によって乾燥時間は異なります。
- ・ 乾燥を急ぐ際の器具等を使っての急激な乾燥は、ひび割れの原因になりますので十分ご注意ください。
- ・ 各作業は、必ず前工程の乾燥後に行ってください。
- ・ 養生は施工後できるだけ早く除去してください。

- ・ 施工場所をよく換気してください。
- ・ 誤って目や口に入ってしまった場合は、清潔な水で洗い流すなどしてから医師の診断を受けてください。
- ・ 施工後は手洗い、うがいを行ってください。

◆下地に関して

石膏ボード

- ① 石膏ボードの動きや剥離がないことを確認します。
出隅に面引きを使う場合はカッターで出隅の面をカットしておくとう作業がしやすくなります。
- ② 目地の部分にジョイントテープ(寒冷紗テープ、ファイバーテープ)を貼ります。出隅、入隅部分も同様の作業を行います。
- ③ はじめに下パテをヘラ等でビス穴に埋めます。次にジョイント部分を約15cm幅で塗っていきます。出隅、入隅部分も同様に約15cmの幅で塗ります。
- ④ 下パテが完全に乾燥した後、上パテをビス穴に塗ります。
同様に上パテでジョイント部分、出隅、入隅に約20cmの幅で塗っていきます。